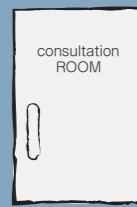




形成外科 科長  
今野 宗昭  
この むねあき

きょうは  
形成外科  
です



こんにちは  
診察室です。

# 褥瘡じよくそうについて

こちらから「こんにちは診察室  
です。」のバックナンバーをご覧  
いただけます。



## はじめに

褥瘡は、長く寝たきり（床についた状態）になった人によく見られたため、「床ずれ」とも呼ばれていました。治るのに長い時間かかり、場合によっては治らずに亡くなる方もいるため、できる時も長時間で徐々に行けると考える人がいます。しかし、実際は数時間でできてしまうものです。

それでは褥瘡とはどういうものでしょう。褥瘡は圧力や張力が関連して循環が妨げられてできる組織障害です。腕や脚を強くひもで縛って放置した時、末梢がいずれ死んでしまうようなものです。床と骨の間に挟まれた組織に体重が

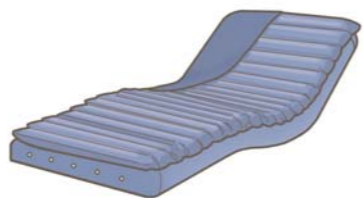
かかって血流障害が起こります。

血流を妨げる要素としては、圧力の大きさ、持続時間や頻度も関係しますし、脱水や血圧低下、ショックなど血圧が下がれば循環障害が起こりやすくなります。動脈圧より強い圧が加わり続けければ2時間で、毛細血管圧より強い程度でも7〜8時間もあれば褥瘡はでき始めます。血圧が下がれば相対的に高い圧が加わったのと同じ効果が出ます。

褥瘡がしやすい場所があります。骨が突出して床などに当たりやすいところです。仰向けで寝た時には仙骨部、踵、背中の中央や肋骨の下の部分。横向きに寝

いて短くなります。

体位変換と体圧分散寝具で外力を調整することができます。エアマットなど体圧分散寝具が介護保険で借りられるようになったことは、入院時にひどい褥瘡が少なくなったことに大きく貢献していると思います。



栄養状態の低下は修復の力を低下させ、浮腫は栄養状態とも関連し組織の循環障害とも関連しています。常にふやけるほどの皮膚の湿潤は、角化層がはげ落ち皮膚が傷つきやすくなったり感染しやすくなったりします。危険因子を認識してそれを取り除くようにしていくことで、褥瘡の発生を予防することができず。

## 褥瘡の治療について

完成した褥瘡は、組織の傷害と修復のバランスがどちらに傾くかで、改善や悪化の方向が決まります。組織の傷害は、もともと圧がかかりやすい場所なので循環障害が繰り返し加わって起こったり、生きの悪い状態のところに感染が加わって大量の細胞が死んでしまったりして起こります。ところが、修復は細胞分裂によって起こるので少しずつ進みません。

組織の傷害はいっぺんにたくさん細胞が死ぬことが可能なのに対し、修復は細胞分裂に時間がかかります。だから、組織の傷害のスピードを抑え、機会を減らさなければ褥瘡が自然に治ることは期待できません。

悪化させる要素を減らし、改善させる要素を増やしてやる働きかけが、褥瘡の治療にもなっていると思うのです。組織の修復力を高める薬剤の使用や感染を防ぐ薬剤の使用、手術も手段ではあるのですが、最も大事なものは、予防できる環境を整えて治療に当たることです。特に手術は創が閉じて処置

た時は腸骨稜（腰骨の横のところ）大転子部（太ももの側面上で大腿骨が張り出して触れるところ）。座った時には、坐骨部と仙骨下部などができやすいです。骨突出（骨が出っ張っている）や関節拘縮（動きの悪い、または動かない関節）があると、通常できやすい場所以外にもできることがあります。

熱傷は表面から熱が加わっていることで傷害が表面に近いほど強いのですが、褥瘡は骨と床の間に挟まれた組織の循環障害なので、皮膚表面に近いところほど障害が強いわけではありません。ごく稀にですが表面に傷害は無さそうなの

が不要となり快適になります。手術によって移動した皮膚や組織は循環障害に特別強いわけではないので、環境を整わずに手術すると再発し、再発後の手術は困難になることが多くあります。そのため、このままの処置で十分治ることが期待できるけれども早く治すことにより、自宅で長くよりよく暮らすことができるような時は、手術を行っています。逆に言えば、よほど大きな利点が無ければ手術をお勧めはしません。

自宅や施設でもエアマットの使用、体位変換は特に大事です。しかし、自力で体位変換ができるようになって安心してしていると、自分の好きな体位にいつも落ち着いてしまう人がいるので注意が必要です。体の側面に褥瘡がある場合は、テレビや家具などの配置を変えて褥瘡のある側が下になっている時間が短くなるように工夫する必要がありますが、今度は反対側に褥瘡ができないように注意しなければなりません。

座位で長時間過ごす人は、お尻の下に口ホクッションという空気

に臀部にしこりができて、おそらく手術中の褥瘡と考えられるものがあります。ぎりぎり皮膚は穴があかずに持ちこたえたものの、中の皮下脂肪や筋肉が傷害をつけて癒痕化しているためだと思われる。日常生活ではこのようなことは起こりにくいですが、たまたま長時間車で移動した時などは臀部に起こることが考えられます。

## 褥瘡は予防が大事です

自立して歩行ができ坐位も保て寝返りもできるような状態では、圧迫を受け続ける場所が分散される時間や頻度の合計がそれぞれにつ

の圧を調整できるクッションを敷くことをお勧めしています。介護用品は多くの場合、介護保険を使ってレンタルできるのでケアマネジャーに相談してみてください。

## おわりに

褥瘡予防の環境を整えることを主にして褥瘡の治療を行い、手術を積極的に行っていないので褥瘡ができただけでは入院の適応にならないことも多いですが、形成外科を受診していただければ患者さんの条件に合ったお薬や被覆材を使用するなど、治療や予防に関してもアドバイスができると思います。



## 「褥瘡」についてご説明します。